

3) 特殊タイプライター等筋ジストロフィー 症者療育器機開発の基礎的研究

国立療養所宇多野病院

児童指導員 中西 孝

当院において以前より、DMP児による和文タイプライター操作を行なってきたが、前回の報告において、タイプ操作を段階的に分け、そのタイムを測りタイプ操作における問題点を考えてきた。

その結果として、まづ第1にブラテンへの原紙付けの段階において、肘が上がりやすく時間がかかるとの事であった。また第2に、活字の入れ換え段階において、自力で入れ換えは不可能であった。

このような事から、今回は、手肢の補助具アーム・スリングを使用しての使用経験を報告します。

ブラテンへの原紙付けの段階において、アーム・スリングを付けない場合より肘の動きが安定したが、タイム的には特別の変化はみられなかった。

つぎに、活字打ちの段階では、アーム・スリングを付けた場合と、付けない場合では、ほとんど変化はなくタイム的にも変化はみられなかった。

使用者に、アーム・スリングを付けての感想を聞くと、ブラテンへの原紙付けでは肘の動きがスムーズになるが、活字打ちでは、より一層の力が必要となり操作しにくいとの事であった。又、活字打ちのキーを一般のより5cmぐらい長くする事によって、活字打ちに必要な力が半減でき一層活字打ちがスムーズにできるようになった。

4) DMP児(者)の履き物の工夫

国立療養所宇多野病院

藤木 るり子 高橋 邦枝

山崎 カジヨ

DMP児(者)が、独立歩行から、車椅子使用の生活に移行する時期にある。不安定な歩行状況を、より安全で、より快適なものとし、生活行動範囲を拡げ、歩行困難に伴う、友人との遊離など、あきらめがちになりやすい患児(者)に対し、精神面においても好ましい影響を与えることを目的に、はき物の工夫に着手した。

昨年度は、市販のはき物を試着し、重さ、材質、型などについて、検討を重ねた結果、DMP児(者)

↓ **検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用** ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

当院において以前より、DMP 児による和文タイプライター操作を行なってきたが、前回の報告において、タイプ操作を段階的に分け、そのタイムを測りタイプ操作における問題点を考えてきた。

その結果として、まづ第 1 にプラテンへの原紙付けの段階において、肘が上がりにくく時間がかかるとの事であった。また第 2 に、活字の入れ換え段階において、自力で入れ換えは不可能であった。